

ヴァグネル・ボルジェス

精神の桜 ヴァグネル・ボルジェス

表紙:レオナルド・ドルフィーニ

校閲: イネス・ポレガット、ナイール・コルチージョス

レイアウト: イヴァン・カルロス・サンフェリッポ

レイアウト:ジュリア・パイ



Copyright® 2021 Wagner D. Borges.

Câmara Brasileira do Livro, SP, Brasil

無断転載を禁じます。 この本のどの部分もどのような形であれ、また/あるいは どのような手段であれ (電子的、あるいは機械的、コピーや録音を含む)著者の許可無しに複製や送信されること、また全てのシステムやデータバンクに保存されることを禁じます。



謝辞

この本は日本の人々に向けて製作した そこからも、ここからも、あそこからも… 精神と真実によって アリガトウ。 平和と光を!



ヴァグネル・ボルジェス

リオデジャネイロで1961年9月に生まれ、スピリチュアルの研究者、超物理的プロジェクター(体外離脱者)、雑誌UFOの講師及びコンサルタントとして活躍。(また「第六感」、「スピリチュアリズムと科学」、「キリスト教的スピリティズム誌」、「霊的な道」、「目覚めた意識「といった他の多くの雑誌の寄稿者でもある。)

著者として - 投影的なテーマやスピリチュアルなテーマに関する14冊の著者であり、その中には肉体の外側での経験について書かれている「スピリチュアルな旅」シリーズがある。

それぞれ異なった著者によって書かれた13冊の本に序文を寄稿。

2つの下記のサイトのコラムニスト

Somos Todos Um(我々は全て一つ): www.somostodosum.com.br

Jornal Caboclo(カボクロ新聞): www.jornalcaboclo.com.br

IPPB: www.ippb.org.br

95.7 FMのラジオ局Vibe Mundial de Sao Paulo(サンパウロの世界のバイブス)においてスピリチュアルな旅というプログラムのプロデューサー兼司会—www.vibemundialfm.com.br

目次

- 7 序章I
- 10序章Ⅱ
- 12 はじめに
- 13本文
- 14ブラジルと日本、愛とパンノキ
- 16 ブラジルと日本、愛とパンノキ Ⅱ
- 18ブラジルと日本、愛とパンノキⅢ
- 20 ブラジルと日本、愛とパンノキIV
- 22 ブラジルと日本、愛とパンノキV
- 24 ブラジルと日本、愛とパンノキVI
- 26 ブラジルと日本、愛とパンノキVII
- 27朝日
- 29 朝日 Ⅱ
- 31 日本の船
- 33桜のスピリチュアルな華やかさ
- 35 宇宙のシーサー
- 37 彼らは生きている!
- 39 更にあるもの、一つの愛と一つの 光

- 44 武道のスピリチュアルな波動の中で
- 46 光の手、愛の手
- 48 オム・マニ・ペメ・フム
- 50 崇高な風の中でのスピリチュアルな訪問
- 52 山の頂上の光の中で
- 55 反省と再出発
- 57 後書き
- 59 後書き||
- 61 用語集
- 62 音楽リスト
- 66 その他の著書



序文 - I

向こうで日が沈んだ時、こちらでは日が昇っている。こちらで夜を迎える時、あちらでは新たな1日が既に始まっている。ブラジルと日本はこの丸い地球の中で位置的に反対の場所にある。しかし、ブラジルが外国で最も多く日本人が住んでいる国となったように歴史はこの二つの国を一つにさせる。

これらの歴史は700人以上の日本人移民が笠戸丸に乗ってブラジルへやって来た1908年に始まった。その多くは日本列島の最南端に位置する沖縄からの移民であった。

これが第一次移民ブームの始まりであった。このブームは後の数十年にも 3回続いた。この4つの移民のブームはブラジルを拠点に活動する日本人アーティストの大竹富江氏が制作した記念碑に記されており、この記念碑はサンパウロ市の南北を結び、ブラジルでの日本人の存在の象徴であるあのリベルダージ地区の近くの5月23日大通りに大々的に置かれている。

初期にブラジルへ来た移民達は主に農場での労働者となった。続いて他の 社会階層の人々や日本の異なる地域からの移民が来た。そしてゆっくりと日本 の文化が多様なアーティスト達の芸術作品や才能によってブラジルに持ち込ま れた。大竹富江氏やその他大勢の例のように。

そして1940年代の終わり頃、伝統的な楽器で何世紀もの間禅仏教の僧侶達と結びついている尺八の達人が来た。この150年で尺八はこの歴史から切り離され、寺から隔離され琴と三味線の2つの楽器と一緒に中核を担い、いわゆる「日本古典音楽」を形成した。尺八の達人であるイワミツナ氏は尺八を荷物に、千年の音楽を心に入れてブラジルへやって来た。

ブラジルへ来て、尺八という楽器を本来の文脈から切り離し、それを異なる 文化に取り入れようとする際、イワミ先生、あるいはイワミ師匠は時空に亀裂を

生じさせるかのように変化をもたらし、尺八が新たな技術、特に豊かな表現力を 獲得するよう努めた。伝統を維持し、グループを結成し尺八の起源である日本 の文化的遺産を再現しようと努力したにも関わらず、尺八の芸術を教えようと 専念した際イワミ師匠は新たに生まれた現実の為の門戸を開いた。

尺八に対する興味を持ったのは移民のメンバーだけに留まらなかった。ある日、彼の前に一人のブラジル人の若者が来た。新たな音の響きを探し求める探究心あふれる研究者で、彼はこの尺八という非常に特徴的な楽器の芸術を知ることに興味があった。その研究者こそが私であった。移民の子孫では無いため、この尺八が奏でる伝統的な音楽との出会いが私の、楽器の、そして私の音楽の中でも避けがたく深い変化を引き起こした。

伝統的な音楽を学び実際に行うだけでなく、一人であろうが他の人とであろうが、尺八を使いながら他の楽器と組み合わせ、独自の美学と他の時代や場所の美学を融合させ新たな音楽の創作も始めた。

2008年の1908年に到着した日系移民の100周年記念の際には、最初の移民の旅路について語ったオーディオビジュアルショーで流される曲を作曲した。その曲は出発、星空、嵐、静けさ、船酔い、マレーシア、赤道、喜望峰、ブラジル先住民族、そして到着といった笠戸丸の神戸港からサントスまでの50日弱の航海の中で起きた様々な出来事や訪れた場所からインスピレーションを得ていた。

10年後の2018年、これらの曲は再編され「Tabi, a jornada(ポルトガル語で旅)」という新たな舞台で使われるようになった。今回は、音楽家、女優そして人形使いでもある私のパートナーのクリス・ミゲウとの共同制作で、彼女のお陰でその「旅」は自己探求の旅、精神的な巡礼のような趣を帯びることとなった。

この舞台の一つにヴァグネル・ボルジェスが観客としているという喜びがあった。彼はただ舞台を観ていたのではなく、物質的な次元であれそれ以外の微妙な波動の次元であれすべての感覚を使い彼の目の前にいた無数の役者を観察していた。そして、その視点によって彼はその夜この本に含まれる文章の一部を作成した。

この本では、ヴァグネルは2つの国それぞれに片足を置いて生きる叙情的な「私」の心の中へと私達を誘う。

そしてこの歴史的、文化的そしてスピリチュアルな旅を詩としてうまくまとめている。

「私は南十字星の地の人々を輝かせるためにこのアジアの目に日の出の輝きを持ってきた。|

このように、一人ひとりの旅の中で、我々は今ここに、この場所と瞬間に、過去と未来の間に出会う。それは限りなく小さく、だからこそ計り知れない現在と呼ばれる瞬間。こうして我々はインスピレーション溢れるこれらの詩に出会い、心を込めて、魂を込めて読むに値する贈り物を受け取るのだ。

- ダニーロ・トミック -

尺八の演奏家、作曲家、達人、ピアニスト、教師。

彼はブラジルにおける尺八という千年の芸術の主要なブラジル人継承者として注目に値し、ブラジルや外国において数多くの演奏に出演している。また彼はブラジル日本古典音楽協会の会長でもある。

そして作曲家としてテレビや演劇、ダンス、パフォーマンスやCD ROMの数多くのサウンドトラックを手掛け、いくつかは賞を受賞。すべて彼自身の作曲で、商業的に2009年に発売された3枚のCDと別にもう3枚ある。

教師としては、音楽教師として、幼児教育から高校まで様々なレベルの学校の授業で20年以上の経験がある。

2011年から2018年にかけてPassarimという集団音楽練習プロジェクトを 企画し、この期間中に3000人以上もの子供が参加した。

2014年からブラジルや世界の様々な劇場で共に公演を行っている歌手、女優、人形使いであるクリス・ミゲウと共同で、2019年に同名の会社の本社である「エスパッソ・クルトゥラル・カーザ・パッサリーニョ」をオープンした。



序章-2

スピリチュアルな探求者、日本人とその子孫、またただ日本文化に惹かれている人にとってこれは価値のある本であり、偉大さ、夢、変容、再出発そして成長についての教えが書かれている。

2000年から私はIPPBに通い常に私のショーやTVプログラムに素晴らしいインスピレーションの源を与えてくれたヴァネル・ボルジェスの教えを学んでいる。私は彼と学んだこのスピリチュアリズムの内容とクリシュナ、ブッダ、イエマンジャ、パチャママ、観音の物語を私の芸術に持ち込もうと模索していた。

私はスピリチュアルなテーマのものに勉強熱心なだけでなく、日本文化に 愛情を持つ人々の分野にもまた興味をもっている。私は何年もの間日本の音 楽、歌や歴史を研究し三味線を学びそれを私のショーに取り入れた。

「Tabi, a jornada」のショーの中では人形劇を用いて初期の移民の歴史的な軌跡について語る為に人形を使った劇を行い、またカズキと呼ばれる船の乗組員である小さな登場人物の内面的な旅路について語った。カズキは紙の鶴と共に魂の大きな謎を解き明かしていく。この旅路にはダニーロ・トミックの尺八の演奏が織り交ぜられている。

2019年、ダニーロと私はサンパウロでCasa Passarinho劇場を開き、ここでの非常に多くのショーやイベントで私のショーを開催した。ヴァグネル・ボルジェスとIPPBの生徒は何度かこのショーや他の日本音楽のコンサートを現地で観て、これらの経験からこの本にあるいくつかの文章が生まれた。

「精神の桜」はこの旅を探求する全ての読者にとって特別な経験である。本書には異なる種類の読者が必要である。ゆっくり読み心に触れさせ、全てのメッセージで読者が希望と共感で満たされるようにする必要がある。これらの言葉は光、繋がり、美と愛を引き出し東方の人々とその記憶、普遍さと平等の繊細な

感覚を表現している。これは感動的なものである。時間を無駄にせず、すぐに本 書の中へ行ごう。

「長い旅はただの一歩から始まる。(老師)

この旅を楽しんでください! |

- クリス・ミゲウ -

人形使い、作家、ストーリーテラー、演奏家、歌手、ダンサー。1997年にマウアカという音楽グループを結成し、様々な民族の音楽や歌を研究することに献身している。

コンパニア・オペラ・ナ・マラの創設者でありTV ハー・チン・ブンとTV クルトゥーラのバウ・ジ・イストーリアスとカルデニーニョ・ヴェルデという子供向け教育番組の構成作家と女優である。

オーストリア、イタリア、スイス、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、トルコ、中国、ボリビア、アルゼンチン、ポルトガル、ブルガリア、ハンガリー、ギリシャ、モンテネグロ、ロシア、ウクライナにおいて国際的な様々なツアーやフェスティバルに参加。

ダニーロ・トミックと共に人形劇、音楽、ショー、演劇を開催し、人形の小博物館を運営しているサンパウロの「エスパッソ・クルトゥラル・カーザ・パッサリーニョ」の共同設立者である。

現在、彼らの報告によると13個の歴史、人形、音楽に関するショーがあり、 劇場、図書館、学校、SESCユニットでブラジル国内と国外に向けて開かれて いる。



はじめに

この本の本文はブラジルと日本のスピリチュアルな相互作用をほのめかしている。

日系移民がこの空に南十字星が浮かぶ地に数多くおり、日出ずる国の地に 多くのブラジル人が住んでいるのは事実である。よってこの両国間で物理的な 世界を超えた繋がりが存在しているのである。

何年か前に体外離脱を体験している際、日本のアストラル界に繋がりのあるとあるスピリチュアル・ガイドのグループが私に連絡をし、日本とブラジルのこの相互関係について文章を書くことは出来るか尋ねてきた。

私はそのタスクを理解し、彼らは私にスピリチュアルなビジョンへのアクセスを与え私を多くの有益な出来事と繋いでくれるだけでなく、 私の文章にインスピレーションを与え始めた。

スピリチュアルなテーマについて書いているだけでなく、事実として私は20年以上サウージ地区(現在サンパウロで最も大きい日系移民街)に住み、多くの日本人の友人を持っているが、彼らはこの文章を作成する為に私を選んでくれた。

正直に言うと、このスピリチュアルの仕事の責任の大きさに私はとても緊張していた。しかし結局、これがこの仕事の結果である。

私はこのスピリチュアル・ガイドのグループがくれた機会に感謝している。 なぜならこの作品は自分が考えられるものを超える役割を果たすと分かってい るから。

この作品がブラジルと日本の両方において多くの人の心を照らすことを願っている。

こちらとあちら、あちらとこちらの絆。

アリガトウ。

平和と光を!

ワグネル・ボルジェス — 無の師、何かの弟子

サンパウロ,2021年夏



本文





ブラジルと日本、愛とパンノキ

私はパンノキを日本に持っていった…

ニッポンのものに心から私は魅了された。

私は東方の地に心地よさを感じていた。

なぜならブッダが日出ずる国の地を抱擁しているのを見たからだ。

日本で私は多くの友人を作り、昔のことをを思い出した。

私が日本人になることになった場所。

私は将軍でも侍でもなかった!

日本から私は西洋に来たのだ。

そう、私は東洋から来たのだ。

私は喜んでブラジルで霊媒になった。

私は桜がピンク色に咲き誇っているのを見た。

そしてその花びらが過去の苦痛を覆っている。

ああ、あちらから私はパンノキを持ってきたのだ。

日本の兄弟たちよ。

愛する江戸の島よ!

昔、私はあなたの息子だった。

今日、私は半分ブラジル人だ。

日出ずる国と南十字星の故郷の絆。

富士山からポンジアスーカル。 東京からイビラプエラ。

ああ日本、過去の痛みを忘れてください。

ブッダが貴方達の子供に多くの愛の波をもたらしたのだから。

ここブラジルでは、イエマンジャとペナ・ブランカは日本人達を喜びと共に 迎えた。

彼らは今も生き続け南十字星の星の下にいる。

愛する日本よ、彼らは貴方のお腹から来た…。

パンノキをブラジルの土壌で食べる為に。

福島からケイコという女の子が来た。

彼女はブラジルでイラセマという名を得た。

タケダさん、ミナモトさん、スヤマさん...

彼らも今では褐色の肌を持つブラジル人である。

ああ、日出ずる国の地はここである!

東の海を越えた移民達の子供が住んでいる場所

そして私の心にも日本がある。

私の愛する日本。

ありがとう。

平和と光を!



ブラジルと日本、愛とパンノキ川

私は日本から来た。

私はブラジルに魅了された。

侍であった私は今では褐色。

今日、私は日本人でトゥピ・グアラニ族(ブラジル先住民族)だ!

ある日、私は富十山の麓で祈った。

今日、私は親切な黒人から学んでいる。

偉大な緑と黄色の地で生きる為に私は江戸の島から来た。

ああ日本、心から愛している日本よ。

私は桜の花だったが今ではパウ・ブラジルの木だ!

私はいずれいつかは日本のお寺に戻るだろう。

しかし今ではエシュウ(アフロブラジル宗教における仲介者の精霊)と共に 踊っている!

私の尺八は既に収納された。

なぜなら今ではギターとパンデイロ(ブラジルの伝統的な打楽器)を弾いているから。

私の刀はもう既に無い…

今、私は霊気で手当て療法を行っている。

愛する日本よ、貴方から私は多くを学んだ。 今日、私は 最愛のブラジルの地で学んでいる。

ここには貴方の多くの子孫たちが住んでいる。 また他の人々も学ぶために来る。

かつて、私は昇る太陽を貴方の輝かしい象徴として崇めていた。 今日、私が好きなのは南十字星の故郷の空に輝く太陽だ。

ああ日本、貴方の基で過ごした時間を心から感謝している… そしてブラジル、ここにいる時間をとても感謝している。

日本とブラジル、私の2つの誇りと喜びの地… 1つの心にある2つの愛情!

追伸.:

ああ、私は日本人でトゥピ・グアラニ族だ。 黄色くて褐色、侍の少年。 東洋と西洋。 私はあちらでもこちらでも幸せ。 ごきげんよう、日本!ごきげんよう、ブラジル! さようなら!祝福を!

アリガトウ!

平和と愛を!



ブラジルと日本、愛とパンノキ||- |||

私が海を渡った時、日本も一緒に来た。

そう、私の心の中に。

ここで、桜の木の景色はリベルダージに変わるだろう。

私は東洋の目の中の日の出の輝きを持ってきた。

南十字星の地の私の歩みを輝かせる為に。

ここで、富士山の景色はサウージ地区の景色に変わるだろう。

先祖達は私と共にやってきた。

精神とインスピレーションの中で。

ここで、古い風の光景は暖かいそよ風になるでしょう。

江戸の島が後ろ遠ざかっていく間、私は空を見ていた。

私の目的地はパンノキの地であるブラジルだったから。

ここで、私の過去の光景は現在となるだろう。

夜、私は天照神を夢見ていた。

そして彼女に新たな土地の私の人々を導き護るよう願った。

星空の中の天照神のビジョンは私の帰る場所になるだろう。

私がその旅の音楽を作った時、それは尺八と共に作られた...

そして、精霊たちは私と一緒に尺八を演奏しました!

先祖のビジョンは私にとっての生命の息吹になるだろう。

追伸:

ケイコが私のところに来て尺八を弾いたとき、私にすぐ言った:

「あなたの目から真珠が降りて来る|

タケダも来て、私にハグをして言った:

「ブラジルにはパンノキがある。」

そして、スヤマが来て私に提案した。

「パンノキと真珠を混ぜよう…そして我々の夢を歌おう。」

そして私は歌った。ペナ・ブランカとブッダについて考えながら。

どうして日出ずる国の地がブラジルのアストラル界と出会ったのか?

(天ではイエマンジャと天照神は一緒になっており、光を讃える歌を歌っている。)

そして今、私は日本のトゥピ・グアラニー族になった。 この結びつきが私をよりよき人間へと導いてくれるように。

アリガトウ。

平和と光!

- 参照:

エスパッソ・クルトゥラル・カーザ・パッサリーニョにて私は「旅、最初の移民のブラジルへの旅路」のショーの発表で彼を見た。(私の友人であるダニーロ・トミックの尺八とクリス・ミゲウの人形劇パフォーマンスと同時に。)

https://www.facebook.com/casapassarinho.arte

^{*}私はこの文章をある肉体を離れ霊的存在となった、1908年に日本から移民としてブラジルにやって来た日本人男性から受けたインスピレーションを元に書いた。彼はここで生き、幸せだった。愛情深く、心のこもった精神で接した。彼はブラジルに移住しに来た日系移民に関連したテーマについて書くことを私に頼んだ。

それから何日か後の今日、私は彼に頼まれたことを書く気になった。 そして 同時に、ここにとても良い感覚、桜と愛が織りなすハーモニーが私の心に降ってきた。

その事についてまた書くことが出来て光栄である。

- ** サンパウロ市のリベルダージ地区:日本国外にある大きな日系移民地区
- *** 私が現在住んでいるサウージ地区:サンパウロ市の別の大きな日本人街



ブラジルと日本、愛とパンノキIV*

ちょうど今、私はブラジルの青い空に混じってクリシュナの青を見た。

ここ、エスパッソ・クルトゥラル・カーザ・パッサリーニョで私はスピリチュアルなビジョンを得た。

日本人の肉体を持たない指導者達が子供の集団と共に到着するのを見た。 霊的に花びらを振りまきながら、彼らは空中で渦を巻いた。

そう、桜の花びらを。

彼らは日出ずる国の地からブラジルの空で子供達に挨拶をする為にやって きた。

彼らは尺八の音の振動をもたらし、シャーマンの少年達は鳥のさえずりを捧げた。

そう、カーザ・パッサリーニョの空の上で私は日出ずる国の人々と森の精神が出会ったのを見た。

そして私は再びここで日本とトゥピ・グアラニの絆を見ることができて感傷的な気持ちになった。

驚いたことに、 日本の長老たちがブラジルの子供達と手を取り合い、光り輝く霊的な輪を形成しているのを見た。

そして、彼らは皆カラフルな鳥と変容した。

そして彼らは愛する南十字星の空へと飛び去っていった。

そう、クリシュナの愛が混ざったあの綺麗な青い空へと。

ああなんていい日だ!

日本人の指導者達とアストラル界の少年達がカーザ・パッサリーニョに集 い…

私はここで少年クリシュナを授かった。 ここブラジルの地で、カズイはジャナイーナと出会った。 そう、この日本・トゥピグアラニーの日に。

アリガトウ 平和と光を!

注記:

*この文章はまたとても晴れたある日曜日にサンパウロの都心にてショーのすぐ後、エスパッソ・クルトゥラル・カーザ・パッサリーニョの講堂でも書かれた。(クリス・ミゲウが私に彼女の全ての感性、愛情、友情を込めて作った少年クリシュナの美しい布人形をくれたショーだ。)

透視を通して、私はある日本人の肉体を持たない指導者達のグループがそこへ入ってくるのを見た。そして彼らとともにスピリチュアルな少年達の集団も入ってきた。(原住民の子供たちの形をした霊的な実体で、トゥピ・グアラニのシャーマニズムの伝統に関連している)。つまり、カーザ・パッサリーニョのアストラルの雰囲気で日本とブラジルが出会ったということである。

** クリシュナーヒンドゥー教徒において最も偉大な神の使い(神聖な使者)。バガヴァッド・ギータの言い伝えによるとアルジュナの指導者である。(叙事詩「マハーバーラタ」の最も大事な部分)



ブラジルと日本、愛とパンノギ- V

海を越え星空を越え時空を越えた歌がある…

私の憧れの日本…

私の記憶にいつも美しく残っている。

あなたの歌は海をも越える…

そしてブラジルへ、私の心へと辿り着いた。

私の先祖達がそこから来た。

あちらの地の歌で一杯であった。

山々と川も同時にやってきた。

今日私の中で歌っている。

私はここで生まれた、あちらの魂と共に!

古代の知恵が私を啓発する。

そして精神が私を導いた。

老いた賢人達が私の心の中で歌っている。

彼らは富士山と桜について話している。

そして働き者で献身的な魂を持った人々について。

今日この南十字星の故郷にいる多くの人は愛する日本の古い子孫たちである。

恐らく南国の地で何か新たなことを習得しているのだろう。

古い侍達は今では褐色の少年少女である。

ケイコとジョアン、スヤマとジョゼ、タケダとマリア、彼らは小さなブラジル人だ。

ここサウージ地区やリベルダージ地区で彼らは出会ったのだ。

日曜日の青空市場ではアジアの目で褐色の人々を見ることが出来る。

星の国において、クルミン達と老賢人が手を繋いでいる。

ブラジルにいる古い日本の少年、西洋にある東洋の歌。

日出る国が老いた黒人達と踊っている。

ああ、東洋の賢者達がここで歌っている!

彼らは新たな桜の開花とともにやってきた。

日本の空からブラジルの星空へと。

そして今日、彼らは私にすべてを書くことをお願いしてきた。

日本とブラジル両方の日本人に敬意を表する。

ああ日本、日本よ、日出る国よ…

彼らの歌は再び海を越えた。

そして私の哀愁に溢れた庭に桜の星空を持ってきた。

ここに紅葉した葉っぱが地面に落ちている。

春がやって来た。

しかし私の心では春の星空の中で葉が再び青くなった。

その間少年の精霊達は賢者達と戯れていた。

ああ日本、日本よ歌い続けてくれ。

ブラジル人と日本人、パンノキと桜の木。

ああ日本、日本よ歌い続けてくれ。

それ以上なんと言えばいいか分からない。

追伸:

私はこちらとあちらの日本人に対して書物を書くことを再び求め、海を越え 永遠の星空の国で霊的に抱き合う兄弟達の意識の不滅性を語る賢者達の歌を 聴いた。

私は侍の少年の魂で日本-トゥピ・グアラニに関するこれらの書物を織りな すことしか出来なかった。

ブラジルにいる日系移民やその子孫達がこれらの書物に誇りを感じてくれれば幸いだ。遥か彼方で、お婆さんやお爺さん達は普遍的な生活全体に広がる海や星空や次元を越えてきた霊的な歌を気にし続けた。

アリガトウ

平和と光を!



ブラジルと日本、愛とパンノキ - VI

天照神のスピリチュアルな力

彼らは霧の中を漂ってやって来た...

それは日本人の精神の行列であった。

彼らは白衣を身に着けていた。

彼らは手に小さな水差しを握っていた。

彼らの一人が優しくこちらを見つめ「この水差しの中に治療の秘訣がある。」 と言った。

我々はそれを目に見えない病人達を治療するために持っていった。

また、越えることのない精神を解き放った...

我々は天照大神の下僕である。

我々は霊的支援の活動として光を運ぶ。

我々が行くところにはいつも太陽の聖母の祝福がある。

それはそのサブリミナルな瞬間に我々を見た聖母の仕事である。

日本人コミュニティはこの国ではとても大きいのだ。

彼らの多くは神々に対して祈る。なぜなら彼らは子供の時にそれを学んでいるからだ。

彼らのお婆ちゃん達は日出る国の地で古い歴史について話していた。

彼女達は苦しんだ時に神様に祈るということを教えた。

だからこそ、あなたは私たちに会ってこの行動を記録することが許されている。

天照大神は貴方が祈る人々に喜びを与えるためにこの視点を書くことを望んでいる。

彼女は貴方がこの機会を誇りに思い彼女の使命を果たすと分かっている。 このビジョンが知られたとき、他の多くの人が彼女の祝福を受けるだろう。

だから待って。なぜなら彼女はあなたのために特別なビジョンを用意しているからだ。彼女の使者としてこの知識を共有してくださったあなたのご厚意に光栄に思う。

このことが日本人コミュニティに喜びを届け、彼らはそれを知って大いに喜ぶでしょう。

私達は貴方とこのビジョンを共有する為に世界を周る。

天照神が私たちに命じ、癒しのエッセンスを与えてくれたので、私たちはエネルギーの膜を、生命諸次元の間を通って越えた。

我々は霊を解放し、光の中に渡す。

それは我々の喜びである:彼女が我々を遣わされた場所で、我々の聖母に 仕えること。

その夜、婆ちゃん達がいつも教えてくれていたように祝福が流れ、日本人コミュニティの人々がそれを受け取れるよう彼女は私達を貴方のところへ送った。

恵みと名誉と共にいつも私の心を導いてくれたのは天照神の光であった。

この日本人の指導者は壺を1つ開けながら、私にこのすべてを語りました... そしてそこから芳しい蒸気のエッセンスが湧き出し、私は喜びで満たされた。

穏やかな満足感が私を満たし、私は感謝しながら頭を垂れ下げた。そしてどういうわけか私は聖母の視線を私の目に感じた。

その夜、私は天照神の使いの一人であるような気分にもなった。

彼女の光とともに、このビジョンがそれに値する人々に届くことを願っている。

追伸:

微妙なエッセンス...

そして空を飛んでいく...

神々は目に見えないところで見守っている。

東洋からその子孫たちへ。

ああ、日出る国の地からか…

祈る心のために。

婆ちゃん達は喜んでいる。

なぜなら貴方の信仰は生きているから!

世界の幻の光をはるかに超えて…

永遠の天照神の光が輝く。

ああ、このビジョンが西洋から東洋へ戻ってくるように…

ただ一つであるこの愛の働きと恵みによって。

アリガトウ

平和と光!

- 参照:

* 日本文化では、天照神は太陽と宇宙の女神で、神道の神々の中で最も重要な神の一人だとされている。

彼女には世界に光を届ける使命がある。彼女は世界に光をもたらし、豊饒をもたらす責任を負っている。伊勢にある彼女の墓は日本で最も重要な場所の 一つである。

** 神々– 日本語 – 霊的な存在; 先祖の守護霊;

神道の慣習によって神聖なものとなった。



ブラジルと日本、愛とパンノキ - VII

神々の風に乗った夢の歌。

私達の視線が出会った場所。

理解し感じる以上のこと。

心を超えて一つの歌が流れる。

間違いなく何かもっと深いものがある。

それはどこから来たのか?

霊たちも歌っていると言われている。

彼女らの歌は心に語りかけるのみ。

誰がこのことを理解するのか?

感じるものであって、説明ができないこと。

古い歴史が永遠の宇宙を旅する。

霊的な歌を通して語られる。

それらは心が聞くのと同じ曲だ。

それらの歌は神々から語られたものだと言う人もいる。

そしてその歌をこちらへ持ってきたのは風であった。

東洋から西洋へ。

この歌が言いたいこととは?

それはいつも大きな愛である!

その歌は夢を追いかける心に語りかける。

そして誰が神の風に身を任せるのか。

天照大神は太陽の中から歌っているとも言われている。 そしてその光は世代を超えて物語にインスピレーションを与える。 誰かこれを認識しているか? 日本からブラジル、海を越えて。 そこでの旅は何をするのか。 ブラジルから日本、大気を越えて 神々の語りは夢の歌へと変わっている。 間違いなく何かもっと深いものがある。

アリガトウ 平和と光!



日の出

太陽が日本の家の高さに昇った。

赤い屋根に千の輝きの反射を見た。

心は透視をし旅し始め、私はスピリチュアルな日本人の姿を見た。

私のスピリチュアルな目の前を何世代もの日本人の姿が通った。

日本の歴史の時代は私の認識の前に形作られた、スピリチュアルで視覚的な巻物のように展開する。

私は日本が誕生し、変化し、再び現れ、また変化するのを見ている。

時の流れと共に、映像は精神的な日本が技術的な日本へと変化していっているのを映し出している。精神性は消え去り、残ったのはテクノロジーとストレス、意識の空虚さだ。

日本人の魂は、テクノロジーというドラゴンの腹の内で引き裂かれ、苦悩しながら涙を流している。より古い世代の者は時代遅れの名誉規範に囚われ、より若い世代は空虚な電子機器に囚われている。

おお江戸の島よ。

先祖達は悲しんでおり、今の若い世代は人工的な光に包まれ我を見失っている。

どこに本物の魂があるのか?

日本人よ、貴方の輝いた夢はどこにあるか?

心を苦しませる近代化とはこのことか?

なぜこれらの人工的な光は精神的な輝きを奪ってしまったのか。

私は再び日本の家の屋根を見た。

太陽は既に落ち、住人は明かりをつけていた。

しかし、天頂にもう一つの太陽が現れた。その光はより強くその光の中に愛

の波を感じた。

それは家全体に光の知恵を浴びせるブッダの精神的な太陽であった。 私はこの象徴的なビジョンを感じた。この家が日本を象徴していると! この瞬間日本の魂がブッダのダルマを受け入れたと感じた。

そう、ブッダの精神は日本人を抱擁している。

28.

精神の動機がこのビジョンを私に見せるかは分からない。しかし、直感的に 日本と古い繋がりを私が持っていることは分かった。

日本人の未来は分からない、しかしブッダの太陽は極東のスピリチュアルな屋根の上で輝いている。

私には日本人の本当の魂は人の心のあるべき場所を占めたがっているよう に見える。

それはブッダの光の上で輝く。

そしてその光は人工的なものではなく愛の太陽である。

アリガトウ

平和と光!

- 参照:

- * 透視 ラテン語のclarus (明らか)、videre (見る)に由来 精神的・霊的なイメージや心の中の情景を通して、物体、心理的な出来事、場面、物事に関する情報を得ることを可能にする知覚能力。
- ** ブッダ サンスクリット語 照らされているものの意

「 真の輝き 」「純粋な知性」という意味を持つ「Buddhi」という単語から派生したもの、 つまり Buddhiの状態に到達した者はブッダとなり、輝き解き放たれたものとなる。

*** ダルマ – サンスクリット語の「Dharma「 – 義務, 使命,実存プログラム、メリット,祝福、美徳な行動、 高い目標、健全な行動、 正しい態度,ポジティブで皆の利益になることに基づいた動機



日の出 - 川

2人の日本人の霊との話し合い

友よ、ブッダの心は東洋的でも西洋的でもない。

なぜなら愛に国境は無いから...

一番の名誉は何かの価値観を否定したり無くしたりすることでは無く、平和 に働きかけることである。この世のどんな為政者も天の神ではないのだ!

最高の名誉は、何らかの価値観のために殺めたり命を失ったりすることより、平和のために働きかけることにある。そして、この世の皇帝は誰一人も天の神ではないのだ。

従って、各々のメリットを評価できるのは神だけである。

日出ずる国は地平線の線上で地球の神が起き上がるところだ。それは毎朝 どの場所でもだ。

知っていましたか?... 私は彼らを兄弟達のように見た... なぜなら私も一度 日本人であったから。

江戸の島はブッダの光と同じように私の心の中に存在している。

それ以上に、われわれは皆地球市民であるのだ。我々の本当の愛国心は永 遠の偉大な心の中心にある。

我々は兄弟だ。そして昇る太陽はすべての存在に属する。

知っていましたか?... 私はブッダの精神が日本人の心に抱擁をしているのを見た。

それは日本の空の上でオレンジに光る巨大な太陽のようであった。その光 はただ穏やかな思いやりであった...

そこで私は神風特攻隊、広島と長崎のことを思い出し、私の日本の兄弟に 祈りを捧げた。

日本を襲った津波や地震という痛ましいカルマの清算に遭った人々を思い出し、そして私はまた更に祈った…

但し、彼らの苦しみよりも私は彼らを導くブッダの愛 のことをより感じた。な ぜならブッダの太陽は彼らの定められた道を光り輝かせるからだ。

ああ友よ、偉大な日の出は偉大な愛なのである。

皆さんがこれを読み注意を払ってくれたことに感謝している。

我々の心もまた小さな愛の太陽であるのだ。

追伸:

私は第二次世界大戦で神風特攻隊員となった若者たちのことを考えた。また彼らの家族のことも。ブッダの足が重くなったような気がした。

30.

私は広島と長崎のことを思い、きれいな青い蓮の花が現れるのを見た-肉体を持たない指導者によって日本人への敬意が精神的な形となった。私は地震と津波の被害者のことを思い、ブッダの太陽が日本の空を輝かせるのを見た。

私は他の国に住む彼らの子孫を含む日本人の魂について考え、静かに祈った。

そう、私は実体があったり実体のなかったりする日本の兄弟達のことを思い、美しい光を見た。

私の心が「オム・マニ・パドメ・フム」のマントラを歌いながら、私はブッダに 感謝している

アリガトウ

平和と光!

- 参照:

私はこの文を実体のない日本古来の服装で身を包んだ二人の日本の青年に私の部屋であった後に書いた。彼らはある四角く封がされ、日本語がびっしり書

いてある赤い紙のようなものを保持していた。その中には紙を貫通する強い光が見えた。赤く薄い紙に包まれた箱の中にある小さな太陽のようであった。

彼らは私に挨拶をし、私にこの箱の中には第二次世界大戦で神風特攻隊員となった多くの青年の名前があると言った。その二人はどちらも物理的な世界を超えたチームで向こう側にいる人を助ける仕事をしていた。また彼らはその青年の多くはこの世界の色々な場所で肉体を再び手にし彼らの集団を目に見えない形で助けを得続けていると教えてくれた。

驚いたことに、彼らは私にその事について書くようにお願いしたのだ。なぜなら 彼ら曰く、それが多くの日本人の家族や彼らの子孫を安らげることになるから だそうだ。

私は心の底からこの文に綴られていることをした。

そして私は日本の兄弟達に誇りを感じた。



日本の大型船

千の不思議な道の途中。

日本の大型船

流れる川

山々の間に、

春の光の中に

流れる音楽に

尺八の音の中に

琴の音の中に

そして私の心の中に。

東方からの風の中に

日出ずる国の地平線に

桜の木が生い茂り

自然の聖地。

日本人の心が歌う歌、

記憶にある川

山々の間に、

心の渓谷の中に

音楽の精霊たち

千の美しい道の途中。

ここにインスピレーションが湧いてくる。

日本で

日出ずる国の地で

ブッダと僧侶が共に走る地

青い空が富十山と口づけをしてある血

琴が尺八で演奏されている地で

日本の山

それは音楽の川を流れる

日本で...

いつも私の心にあるもの

追伸:

私はエスパッソ・クルトゥラル・カーザ・パッサリーニョの書斎で新たにこれらの書物を書いた。(https://www.facebook.com/casapassarinho.arte/), それは音楽家のダニーロ・トミックと日本人の達人キタハラタミエが尺八と琴を演奏したところである。

とにかく、この演奏のテーマに触発され私の心のコマンド、川と山とその他の間を走る古い歴史のスピリチュアルな羽、に関するこの文を書いたのだ。

アリガトウ

平和と光し

- 参照:

*琴、尺八-日本に起源を持つ楽器。

琴は弾かれる弦で構成され、1.8mにもなる大きな弦に似たいくつかの弦が張られた響板 を持ち、現在日本の伝統的な楽器の中で最も人気のあるものの一つである。

尺八は漠然とヨーロッパのフルートに似た東洋の息吹である。

吹き口、竹製の本体、5つの穴と明らかにシンプルな構造をしている。



桜のスピリチュアルな華やかさ

神々の祝福の秘密の花。

私は桜についての浮遊する精神を見た。

彼らは良い心を持つ人が通るのを待っていた。

彼らに素晴らしい物語をもたらす為に。

天照大神は彼らに太陽の光線を送った。

すぐに彼らは虹色に染まった道をサーフィンしながら降りていった。

桜の木の上にはスピリチュアルな入口があるからだ。

そこで彼らはブラジルの地に現れた。

彼らは皆幸せな日本人であり、光の運び人であった。

ああ、私が彼らをハッキリと見て彼らに言った「まだ春じゃない!」と。

彼らは笑って私にこう言った:「常に精神的に春な空に桜は存在しているものだよ」と。

満足し、私は彼らの目に映る先祖達の知恵を見た。

そして私は彼らの物語のスピリチュアルな強さを感じた。

そのうちの一人はいい歳の大人で、頭に農民風の帽子を被っていた。

彼は「今日私は平和の花びらを蒔く。天照大神は私にその課題を課してくれ、そのお陰で私は幸せなのだ」と言った。

もう一人はとても若く私にこう言った。「私はここで生まれ変わる。愛する南 十字星の上で私は天照神の光を歌うのだ」と。

そして小さな日本人の女の子が現れ私に言った 「私は彼の妹になる。神々からインスピレーションをいただき、私は素敵な詩を書くのよ」と。

感心し、私は彼らが桜の色の光に 巻き込まれているのを見た。同時に、人生 を呼び全ての人に良い考えをさせるその喜び。

それはまた天照神の光だと私は分かっていた!

空の上にも桜は存在しているのだ。

そして日本でもブラジルでも遊び心のある物語。

たまに、神々は目に見えずとも桜の花と混ざっていることがある。そこで彼らは通行人に秘密の祝福を振りかける。

それはもう長く続いているものだ。善の春に。

(天照神がこの本を祝福してくださるように。)

34.精神の桜

www.ippb.org.br

追伸:

日本とブラジル、ブラジルと日本,

同じ歌.

心だけでなく、私達の見た目にも出会った。

同じ光によって。

(神々は私達にいつもインスピレーションを与えてくれるように.)

アリガトウ

平和と光!

- 注記:

* サクラの花 (日本語の桜) は美しい少女を意味し、愛、幸せ、再編、希望の象徴である。

その言葉は日本の国花である桜として 知られているアジアに起源がある花だ。その花は記録されているもので300種類もあるとされている。

しかしサンパウロ州にあるブラジルで育ったものは、3種類しかない。



宇宙のシーサー

内なるドラゴンに打ち勝つ。

海の向こうを見つめて、あなたにはドラゴンが見えるか?

時折、風が何か他のものを運んでくる。

それは精霊達の歌。

あなたはシーサーが戦いに連れて行かれるところを見たことがあるか?

あなたの心はまだそれと一緒にいるか?

もしかしたら守衛が祈りを通して

シーサーに何かを言っているかもしれない。

それとも、あなたに頭を上げるようにと、呼びかけているのだろうか。

物語はまだあなたの奥深くに落ちているか?

良い精神が笑っている世界の上を見てみなさい。

彼らは宇宙のシーサーのようなものだ。物語の守り神だ!

あなたはまだ瞑想中に彼らの声が聞こえるのか?

彼らは海をも越えている。

そうブラジルのアストラル界の物語を伝えに来るのだ。

なぜなら天が彼らに命じたからだ!

彼らは神に祈るすべての人を知っている。

そして多くの場合、何か永続的なことを思い出させようとしているかのように、 彼らはお香の煙を吹く。

それがあなたの心の中にあるシーサーの力である…

あなたが自身の内側にいるドラゴンに勝利するために。

沖縄でもブラジルでも、彼が良くなるために歌い続けるのだ。

旅の前にあなたの前にいたすべての人に感謝する...

あなたの個人的な行動で彼らを称えなさい: 自分を打ち負かしなさい!

昔の物語ー今日のあなたの物語ー それらが同じであるように。なぜなら時は 進んでいても、守護霊は旅を続けているのだから。

日本でもブラジルでも、彼らは宇宙のシーサーなのだ。

追伸:

思い出してほしい:物語を聞いていた子供だった頃のあなたを...

あなたが感じていた憧れを思い出したか?

36.

ああ、あなたはシーサーの力を得ることを夢見ていた。

それならそうしよう!あなたの今日の物語でそれを誇れるようにしよう、

あなたのドラゴンに勝つのだ。今ここで。

全てはあなたの中にある。

沖縄でもブラジルでも、シーサーの守護を思い出すのだ。

(神々は方向を示し続けている。)

アリガトウ

平和と光!

- 参照:

*シーサー-日本語-シーサーは日本の神話における存在。

(犬とライオンのミックス)、守護霊、現在の沖縄に現れる琉球文化の典型例。 備考:ある肉体を持たない日本人の集団が私にこの文章を書くことを触発した。正 直、私は書かれていることをはっきりとは知らず、ただ流れるように書いた。 私は日本のとある島である沖縄の文化でシーサーがどのような意味合いを 持つのか知るためにすぐに調査に行った。それらはまた私が後に調べる事に なる古事記(日本の歴史に関連するものの中で最も古い歴史書。文字通り古 い事についての記録がされている。)についても言及していた。

シーサーの伝説について知りたい人の為に「Japão em Foco」というリンクを下に貼った。

https://www.japaoemfoco.com/shisa-a-estatua-do-guardiao-de-okinawa/

備考:

これらの文章を書いている間、ここで私の中で起こったボーカリストの夏川りみ(私は彼女のファンである)による沖縄ソングを響かせる。

また下にYouTubeのリンクを貼った。

https://www.youtube.com/watch?v=J43yvF5BI6A



彼らは生きている! - VI

スピリチュアルな日本において...

友よ..

去っていった兄弟達に悲しい気持ちは抱かない。

彼らは生き続けている、憧れを超えて、ずっと超えて。

彼らは霊的な肉体で輝いている、それは彼らの本当の自然体なのだから。

何も常に存在する不滅の原則を消し去る事は出来ない。

ここ、この形ある世界では私たちの感覚は微妙な次元を捉えることはできません。

しかし、我々は心で他のものを感じることが出来る。

我々の自我が塞がった時、何かを聞くことが出来る。

星から聞こえる感情の繊細な言葉によるささやき。

多くの場合、彼らはとても近くにおり我々を目に見えない形で抱擁する。

他の場合、彼らは我々が肉体を離れる時を星の世界で待っている。

よって、抱擁は世界を超えて永遠の光でなされる。

我々の一部では神秘的な形でそれを感じることが出来るが、 それはとてもリアルなものである。

我々がそれらにできる最大の祝辞は光を通じて生きることであり、それにより私たちが前に進んでいるのを見たとき彼らはとても満足する。

彼らは彫像に住んでいる訳ではなく、ましてやどこかの記念碑にも住んでいません。

彼らはいつものように普遍的な世界に生きており、常に進化し続けている。

どこにも止まるものはなく、地球上、そしてそれを越えた世界で全てが振動 し全て生きている。

彼らは私達が何か前向きなことを当たり前のようにしているところを見た 時に喜ぶ。なぜなら彼らは公正で光と調和した目的の価値を知っているから。

彼らはまた素晴らしい形で星たちと歌い踊る。

そう、霊たちはまた彼らの間を周り戯れ合う、それこそが人生なのだ! 彼らは幽霊や彷徨う魂ではなく、それは常に私達に愛されるものである。

彼らは経験したことを後悔していない。なぜなら光は彼らを無限へと呼んでいるから。

目に見えない内在的な世界では、彼らには見て、再び見直すべきことがたくさんある。

そして更に前へ、彼らはそれをここにいる者達と共有する。

彼らは生きている!そして時間が経てば、容赦なく、こうあるべきであることが示されるだろう。

彼らは彼らについて話すことが好きだ。それは愛の証拠であるから。

追伸:

この文章を書いている時、私は沢山の輝く目を見た。

また、その目は光の輪の中で手を繋いでると感じた。

彼らの内の何人かは原子爆弾によって亡くなった日本人の魂であった。 彼らは笑いながら「私達は本当に幸せで人生は続いている」と私に言った。 様々な年齢や見た目の人々がおり、その日本人達は皆とても良かった。

私に対する彼らの喜びを感じた。そして彼らに会ったことの責任をまた理解 した。

彼らが日本語で何かを歌っているのは分かったが歌詞を理解することは出来なかった。

しかし心の中で、それは子守唄で本当の愛を歌っているものだと分かった。 彼らは残っている人達、そしてこの世に戻った人々のために歌っていた。

彼らは其々がどこにいるのか、各々が異なった国で生きている事は分かっていた。

彼らはとても笑い、私にも理解できない祈りで祝福をした。

私はこの時彼らから感じ取った愛と喜びを知った。

彼らは生きている。そして彼らは日本の地だけでなく彼らの霊的な肉体にもいるのだ。この文章を書いた動機はただ「彼らは生きている」と伝えたかったからだ!

誰も朽ちる身体を出入りする霊的存在を壊すことは出来ない。(原子爆弾も世界の懐疑論も生命を破壊することはできない。)

あちらのスピリチュアルな日本から、彼らはこちらにいる日本人に祝福を送る。何人かはここブラジルへ。他は海を越え実際の日本に。

(彼らの子守唄はこのように歌っていると思う: 「彼らは生きている! 」)

アリガトウ

平和と光!

- 参照:

^{*}下にこの文の4章と5章のリンクを貼る。

⁴章 - http://ippb.org.br/textos/1122-eles-vivem--iv

⁵章 - http://ippb.org.br/textos/1138-eles-vivem-v



更にあるもの、一つの愛と一つの光

日本上空の異空間環境で幽体離脱*から目覚めた。

私はとても明晰で、劇場のステージの数メートル上に浮かんでいる。

その場所は静かに座っている人々で埋まっている。祈っている人もいる。

直感的にそこにいる人は皆肉体から離脱しており彼らの最後の旅路に適応するのに苦しんでいたと分かった。また津波の恐怖にトラウマを抱き福島の悲劇を忘れられない人々がいることも分かった。

そこにいる人は誰もエネルギーの痛みや問題を抱えているわけではない。 彼らの問題は精神的なものだ。それは形式、人々、文化、場所に対する古い執着 である。

彼らの多くは現実世界にいる親しい人への哀愁を感じ泣いていた。他には 先祖達へお経を歌う人々もいた。更には追放感や孤独を感じているものもいた。

その巨大な劇場の雰囲気は居心地が良かった。その明るい壁は、軽やかで健やかな精神的な雰囲気を醸し出している。そこにいる人は皆自身が肉体から離脱しているが、肉体を保持しているかのように存在し普通の人間と同じ環境にいると分かっている。

ある時、私の数メートル上に光の存在があるのを見た。彼は人間のような形では現れず、より大きな発光点のように見えた。彼から来たのは、愛情と幸せな静けさが合わさった思考と感情のエネルギーの混合物として定義される何かの発散だと感じた。

直感的に私は物理法則を超えながら彼のところまで連れて行かれたと分かった。

それは啓発と精神的支援のための働きだとわかった。またそれに関してさらに別の何かがあるとわかった。しかし動機は分からない。私は光を信頼しそこ

にあるものは全てポジティブなもので愛と普遍的な倫理に基づいたものだと分かった。

観衆達は私が上空に浮き上がったのを見ておらず、ましてや光の主も見ていない。

そして禿げた肉体のない60歳の容姿の茶色のスーツを着た地味な服装の日本人の男性がステージに現れた。彼は眼鏡を掛けており、腕の下に本を抱えていた。彼のスピリチュアルな雰囲気は落ち着いていて温かかった。

私は彼が仏教のことに精通した人で地球に執着する肉体を持たない人々と関わった経験があると分かった。彼は長年このことに取り掛かっているように見え、観衆の中には彼を既に知っている人もいた。

彼は講義のように温かくそして礼儀正しく私に個人的に話し始めた。彼らに対し他に次元の現れの世界へ移行する必要があること、人生は続いているということを説明した。そして彼はまたすべてに存在する偉大な愛について話した。彼はブッダの教えをいくつか挙げて、「そこにいるのは皆全て小さな菩薩で、ただ自分自身と大いなる慈悲を忘れており、思いやりがあるものだ」と冗談のように言った。

私は全てを静かに観察し、すぐにそこにいる人々が光を通過する為に助けようとしている男から大きな愛を感じた。また、光の主は彼を密かに触発し彼らにその課題をこなすのに必要なエネルギーのサポートをした。

そこで予期しない事が起こった。彼は上を見上げ、私を見て私の名前を呼んだ。劇場にいる全ての人もまた上を見上げ、ある種の恐怖と共に私に気づいた。 そっと私を押し倒しステージまでゆっくりと下ろしてくれる見えない力を感じた。

ゆっくりと地面に着き男性の手を握った。なんとなく直感的に何をするかとなぜそこにいるのかがわかった。観衆のいる前を向き皆に挨拶をした。

そこで、男はテレパシーで私に

「肉体を持つ人間と同じ話し方で彼らと話しなさい。今の明晰性が低い状態だと、彼らはテレパシーによるコミュニケーションが理解できない。普通に話して下さい。というのも、我々は日本の地に隣接した密度の高い次元におり、地上に執着した霊達を助ける為の仏教系の霊的環境の幽体の中にいるのだ。」と言った。

私は彼らに「あなたはブラジルから来ており、今は肉体を離れて私達をここで助けてくれている。貴方達は普通でありあなたの国でこのような非物質的な活動には慣れている」と話した。また彼らに「貴方達の上には光の主がおり彼らが大きな光まで到達することを保証する」とも言った。従って、私のブラジル人の兄弟よ、あなたができることをしブラジルの美しいスピリチュアルなエネルギーで私達を助けるのだ。

また私は彼らに「貴方達は日本のものを好み、ブッダからの贈り物である子犬がいる」と言った。

今日悲しんでいる兄弟達はここにあるものとは違うエネルギーで慰める必要がある。そのため貴方は光の主によってここまで連れてこられたのだ。よって兄弟達よ、心に話をさせない、そして、日出ずる国へ再びようこそ。

そして彼は去り、隅で静かにお経を唱えていた。

静かに何かが起きるのを待っている数百の日本人の魂の前で私の心は話した。私は彼らに「誰も死んでいない。ただ魂が腐りやすい肉体へ出入りをしているだけだ」と話した。また、我々は皆兄弟であり日本人やブラジル人であることを越え地球市民であると話した。

そこにいることは誇りであり、「そこから彼らを待っている多くの人がおり、 人生は常にあるように続いているものだ」と私は言った。

そして光の柱が私の頭上に降りてきて私はなんと言ったらよいか分からなかった。ただそれを私の中を通り抜けさせる。なぜならそれは高次の光の存在の放射であり、彼らまで伝播すると分かっているからだ。その光と愛の静けさの中で、皆精神的に意思疎通を図っているのだと理解し、出発の時が来て彼らは再び幸せになったと感じた。 ああ、私は魂の、そして実在のこのようなものを見れて誇りに思う。

徐々に劇場の雰囲気はピンク色の光に完全に浸っていた。また、空気中の花の香りに心地よさを感じた。彼らの抵抗はこの愛情深いエネルギーによって壊されたと感じ、何も彼らを判断し完全に理解するものはないと感じた。

この瞬間、予期せぬ他のことが起こった。そこにいる全ての人が立ち上がり、手を広げお経を唱え始めたのだ。彼らが愛する人が「あちら側」で待っているのを見たのだと私は分かった。泣く人もいれば笑う人もいた。

しかし皆自身のビジョンに多幸感を覚えた。あるいはほぼ全員と言ったほうが正確だろうか。なぜなら、前向きに立ち私の左に5歳の日本人の少年がいたのだ。彼は茶色の長ズボンと縦縞のシャツを着て何かを待っているかのようにそこにいた。

彼を見て自分の中で何かが違うと感じた。彼は自身のビジョンを持っている 訳ではなく、彼の注目する視点は私であった。彼は私を驚かせこう言った。

「私をブラジルへ連れてって。あなたと一緒に」と。

彼を見て私は光の主から降ってくる思いやりを感じた。

私は彼のとこへ行きハグをした。少年は泣きながら私に再び言った。「私を あなたと連れてって」と。

この時劇場にいる人は皆我々二人を見ていると気づき、私と少年はハグを した。

観衆の多くは感動し拍手をし始めた。

私はその少年に言った。「もし可能であれば君を連れていきたいし君のお世話もしたい。君を受け入れる事は誇りに感じられただろう。しかし僕はもう50代であと何年生きられるかわからない」と言った。しかし私は彼を息子のように世話をする事は出来た。

どのような形であれ、この先君はブラジルで私の近くにいる誰かの子供として魂が転生するかも知れないのだ。全ては可能であり、私はそれをすぐに認識するだろう。

我々は人生の一部分を共存出来るだろう。今闇から光に入り前に進もう。

再び、光の柱が私の頭上に降り、二人をハグさせた。ゆっくりと、私は抱きかかえている少年と一緒に浮き上がり、柔らかなピンク色の光の中で明るさを失った。そして私はとても高いところから落ちた感じがし、私の肉体と融合していくのを感じた。

そして、すべての幽体離脱経験者がよく知っている、あの典型的な衝撃と共 に。すぐにベッドで横になり起きたことを全てを心の中で振り返った。

私の気持ち的には全てが明るく心はこの世のものでないあの光で一杯である。まだベッドに横になっていたが、部屋の影で寒く静かな夜中、彼らが再び幸せになる為にあの日本人の兄弟への祈りを捧げた。 そうしている間、感謝の

涙が顔に垂れ、偉大な愛の波によって私の心を洗った。

光の主のこと、劇場にいた仏教徒の紳士のこと、そちらにいた人のことを思い出した。

しかし、私の心に思いつかなかったのはあの日本人の少年の顔である。彼の心が私と一緒に来ているようである。そこで、右ひざを触られた感触がして驚いた。

私は彼が私と一緒にいるのを見た。 私とベッドで横になっている小さな相棒のラマも彼を見つめていた。そして彼は私にこう言った。

「光の主は私はすぐ戻ってブラジルに行くと言った。だから待ってて下さい。あなたに近くで会えるのを誇りに思うでしょう。光の主は全てを差し出す」と言った。彼はまた私に助けてもらったことへの感謝を述べ、他の仕事を頼りにしている。ブッダはあなたの旅路を祝福している。

私にそのことを話したあと、彼は別れのジェスチャーをし彼を見るのをやめた。

私は起き上がりアパートの部屋まで行った。外を見ると、宇宙の偉大な建築家が私を生かし学ばせ働かせるために置いた灰色の大都市の寒い夜が見える。

私は日本のアストラル界でのこの経験の精神的影響を未だに受けている。 光の主のエネルギーは私と共にあり続け、あの仏教徒の男性のエネルギーもま た共にいる。だか、私はあの少年のことだけを考えていた。

他にもある。

愛と光である。

追伸:

ああ、私はこの事について何年間も研究しているが、スピリチュアリティにはいつも驚かされる。

そしてますます私は無限を前にした子供のようである感じがする。

何度静かな夜明けが非物質的な援助の仕事の後で私が泣いたのを見守ってくれただろうか。

何度私は悲しく魂のない人々の世界へと密かに降りてくる愛を見ただろうか。

何度私は皆の幸せの為に世界の裏側で行動する光の主を見ただろうか。 何度私はあちら側へ行こうとするのを見て参加しただろうか。

何度私はこの世界のものではないあの喜びと共に自身の肉体へと戻った だろうか。

何度私はスピリチュアルなことに関して他の学習者を啓発するための様々な超物理的な現象について書くために何かを見させられたか。

43.

何度私は何かを感じ、そこで感じたことが偉大な愛の波によって消され書き 表す事が出来なかったことか。

何度私は表現することができず、感じることしか出来ないことを書いたことか。

ああ、何度も私の心は「何か他のものがある..愛と光だ」と言ったことか。

アリガトウ。

幸せと光!

- 参照:

* 意識の投影 -超感覚的能力 - すべての生き物に固有であり、意識が自分の 肉体の外に投影される現象のこと。

類義語: アストラル・トラベル - 神秘主義

アストラル投影 - 神智学

サイキックボディの投影 - 薔薇十字団

幽体離脱体験-超心理学

魂の旅路 - エックアンカー

精神の旅路 - スピリチュアリズム.

肉体外への旅路 - 様々な体外投射者や著者による呼称

魂の解放(また霊的分離)-スピリティズム 霊的高揚 -キリスト教の著者 による呼称

- ** 私は日本語を話すことは出来ないが、皆何らかの方法で私が日本語を話しているかのように私を理解してくれた。 私は地球のエーテル体と重なった濃密なレベルの非物質界に投影されていたため、通常の体外離脱時のテレパシー通信はなく、あたかも私が実際に物質界で普通に会話しているかのようであった。
- *** ラマはヨークシャー・テリアの子犬で暗い色と明るい色調が混ざり合っていて、私とよく一緒に寝ている。



武道のスピリチュアルな波動の中で

私達はここにいる!

武道を床に持っていった...

光を地面に固定する。

平和によって。

武道!武道!武道!

神聖なのは、愛の道を歩む弟子だ。

そのため、私達は心と共に床で感じたのだ。

一緒に歌う: 「武道!武道!武道!」

傲慢は人間の目を盲目にし、憎しみは人間のバランスを壊す。

同時に、カルマは自分のやることすべてを全てを秤に置く。

人間の行動の質への影響を調整するために。

武道の教えに従うものは自分の行動を改善するよう努める。

その影響が縁起の良いものとなり神聖な道に従うようになるために。

武道!武道!武道!

私達はここにいる!

皆の家を守るために。

平和によって。

武道!武道!武道!

- 武道の守護者たち-

追伸:

このメッセージはサンパウロの日本文化協会に関連する肉体を持たない 指導者達の集団から私へ送られた。それは私が光の肉体と体外での経験について話す講義の開始直前であった。講堂において、私は4つの魂が四隅に座っているのを見た。(力士のような巨大な日本人) 彼らは厳粛で集中した雰囲気を持っていた。つまり、家のエネルギーフィールドの守護者であった。

私がそれを見たのと同時に、日本の武道家の衣装を着た他の精霊たちが 私に次元を超えた意思疎通をしてきた。彼らはとても良く幸せに満ちたエネル ギーを放射していた。

今日、これらの文章を清書しながら、彼らの意識の触れ合いを記録できたことに大きな喜びを感じた。そして彼らに会い日本の伝統社会の舞台裏で目に見えない行動を取る機会を私に与えてくれたことへの誇りを再び感じた。 要約すると、彼らのスピリチュアルな雰囲気は素敵なものであった!

- 参照:

* 武道 - 日本の武道を指す言葉。

これはまた、これらの武道の実践者たちの生き方(名誉の規範)を表す用語でもあり、身体的・哲学的・道徳的なさまざまな側面を統合し、自己の向上、規律、そして個人および精神的成長に焦点を当てたものである。

近代の武道哲学によると、戦うのは外部の敵ではなく内部の敵と捉えられ自身の「エゴ」であり、それは内部の敵と捉えられ戦い倒さなければならない。

** カルマ - サンスクリット語の karma -行動; 原因 - 原因と結果に関する普遍の法則 - 考え、感じ、行うことは全て精神面、アストラル面、および物理面での振動運動で、次元間宇宙で容赦なくそれに対応する影響を与える原因を発生させる。

そして、原因のない影響は無く、影響は皆が対応する原因を探すことは明白である。それを昔のヒンドゥー教徒はカルマと呼んだ。 現在、インド以外に、この表現は極東をはじめ世界中様々な場所で使われている。



光の手、愛の手

治癒した手の中では、たこさえも光る。彼らの中にはキリストの光もある。 善の人間達は愛の媒体である。

あなたのチャクラを通して、肉体の無い指導者達は健康的なエネルギーを 流す。

光の手は高潔な星を投影する。これは非物質的に知覚される。

よって、天人達はこの地に降りて癒しの芸術を微妙に操作する。

彼らはキリストの名において働き、無条件に繊細な祝福を広げる。

どうすれば美しくなるのか。 精神の手や人間の手も同じように善であると 兄弟のような関係にされた。

この収穫は前兆だ。光の手は裁かない、ただ全ての人の願いに揺れる。

全ての光の活動は暗い心や隠された意図を保持しない。

善の収穫を行うものは誰なのか、それは光の市民である。

目に見えない手、肉体を持たない指導者の手。

善の人間の手、キリストの手。

光の手、愛の手。

追伸:

この文章は講義(「光の手」というテーマ)が再び行われた「光の道」という 精神の家の肉体を持たない指導者達の頼みがあったので書いた。

その指導者は私にセンターの研究者に関する文章に尽力するよう頼み、またあなたの存在に関する裁量についても書くよう頼んだ。彼によると、この文章

は集団の全ての恩人の名で書かれ、何よりもキリストの名で そこで行われている霊的な源であり指針であるキリストの名において書かれているのである。

他には: ある瞬間に、私は女性のような姿をした存在が東洋の霊的な集団に同伴されサロンのエネルギー的な次元に入っているのを見た (神々しい日本人で明るく輝かしいエネルギーに満ちているようであった。)

多くの日系移民とその子孫たちが多く住むスザーノで目に見えない形で活動する高位の霊的指導者であった。

彼女はキリスト教の精神の家の星にてグループと共におり、彼女はそこにより多くのエネルギーを与えていた。彼女に会えたことに非常に誇りを感じた!

なんて美しい女性なんだ!なんてエネルギーなんだ! あなたのオーラは何 と荘厳な感じなのだ!

なんと美しいのだ。: キリストの精神の家に日本人の指導者の集団がいること。(そこで多くの街の人を助けていること)。私は地上にいる人間が作ったいかなる教義にも従うことはなく、宇宙論者の方法で光の手と話した。

ああそこにいれることが何と誇らしいことか!

「光の道」の中心で光る夜、更に他のものにも出会った。

キリストの愛と東洋の光

更に他のものも…もう一度 愛と光

私はこの偉大な「スピリチュアリティ」と呼ばれるものの前でどんどん小さくなっていった。

アリガトウ。

平和と光!



オム・マニ・ペメ・フム*

全ての場所の母への敬意。

それは鋼とコンクリートの大都市での寒い夜。

しかしここ 私の家の中では微妙で暖かい空気があった。なぜなら光の超物 理的な働き者が今になっても私を訪ねてくるからだ。

彼はそっと来てオム・マニ・ペメ・フムを歌い始めた。

そして、愛の波は私の心に入ってきた。

続いて、彼は高貴な東洋の踊りをし始めた。

それは太極拳のようであったが、彼は手に開いた扇を持っていた。

彼(日本人のような容姿をしていた)は私に心の中でこう言った。

「共感の心に国境は無い。平和の路を旅する人間は小さなブッダである。 そして普段は、連続した生活(輪廻の輪)の中で起こされる。オム・マニ・ペメ・フムのマントラは全ての存在に対する共感の歌である。」

マントラを歌うことで思いやりのある心の最高の感覚を呼び起こす。

今日、私はこのマントラを全ての母への賛美としてあなたに送る。

彼女らが自分はどれだけ愛されているかを知るためにこれを書いて下さい。

私が彼の家でやったこの踊りも彼女らに対する献身である。

その踊りの動機はただブッダへの理解のみである。

彼らは私をあなたの所へ送った。マントラを歌う為に。

静かで繊細な共感の波の母の元へ着かせる為に。

私の踊りはブッダの名において彼らへの畏敬の念である。

私は使いであり、目に見えず平和に歌い踊る。

私はマントラを歌い、それにより凛々しくなった感じがした。なぜならマントラは美しいからだ。

共感の心は旅をし多くの心に触れ彼らを厳かにすると私は知っている。

母への敬意としてこの夜マントラを流し神聖化させよう。

ブッダの使いになるのは素敵なことだ、なぜなら常に皆に祈るからだ。

このマントラが母の元へ届き、彼女らに値する通りに威厳を持たせる。

ブッダは決して何も裁かない、何故なら 彼らは愛する... 彼らを愛している... 彼らは愛するのだ…

彼は礼儀正しさと尊敬を持って私にこのメッセージを綴るよう頼んだ。

そして私は驚き、この共感の波の中で心を揺さぶりながら綴った。

私は光の使いになることの責任を理解している。

そして今日のこの機会に関してブッダとその非物質的な使いに感謝している。

私が書いたこのマントラに関する文章がこの地や他の場所にいる母の元へ届くことを願う。

追伸:

その夜中は寒かった。

しかし、私の心の中では、マントラは温かい。

それはブッダの目に見えない祝福のように暖かい。

なんて母たちがは凛々しいのか。

どうしてブッダを欲するのか。

彼らはこの文章の動機を分かっていた。

(私はただ参加する機会に感謝することしか出来ない。)

オム・マニ・ペメ・フム!

アリガトウ。

平和と光!

- 参照:

- * オム・マニ・ペメ・フム サンスクリット語- 元々のリテラルな意味は: 「蓮の宝石を救え」。 これはチベットの仏教徒と中国の仏教徒の間の菩薩の共感を促すためのマントラである。(共感のマントラとしてより知られている」).
- ** ボーカリストのマライア・イメ・オオイによる美しいマントラの YouTubeのリンクを下に貼った

https://www.youtube.com/watch?v=o5HumvDuGyY



至高の風のスピリチュアルな訪問

日が暮れるにつれ、ある雑誌のために文章を書いている間、私の心の中で ベルが鳴った音が反響した。目を閉じ私自身の内側へ意識を向けた。

透視の道を通る際、私の横に肉体を持たない指導者がいるのを感じた。

仏教のスピリチュアルな雰囲気に結びついている古い友人で他の意識の 旅路の仲間である。

彼は微笑み頭でジェスチャーをし私を祝った?続いて、彼は私の前を指差し、テレパシーで私に言った。「私はあなたと話したがっているあなたの友人を連れてきた。彼は既に何度も体外へ離脱している。何度かは幽体離脱していることを覚えており、他の際には覚えてなかった。 そして今、あなたが自分自身を見つけるのに好ましい状況で、彼は人間界に現れることを決意した。」

私は目の前に 精神的で霊媒的な肉体を持たない訪問者を見た。それは私の家によく遊びに来てIPPBやその他の場所で長年一緒に精神的で霊媒的な活動に関する研究をしていた私の日本人の友人のスヤマである。 彼は善の媒体であり優れた透析を持っていた。多くの地を経験し、彼は簡単な友情を作りながらもウンバンダや幽体離脱の経験に関する研究が好きで普遍主義の姿勢を持った男でした。1996年 当時 47歳の時、肝臓の問題で亡くなった。彼は自身を物理法則を超えた世界に送った。

それから時間が経ち、私は彼と体外で出会ったことを思い出したが、それでもいつも非物質的なサポートに関する研究に携わりそのような会話をする時間はなかった。そして彼はいつも微笑んでおり手からエネルギーを放っていた。彼の霊的な状態はとても良かった。

そして今、彼はここにいる... 私はコンピューターの前に座り、かれは部屋の

真ん中におり笑いながら手を叩いている。そして私の横には仏教徒の指導者がいる。

その部屋は白銀のエネルギーに満ちて大きな満足が空気中にあったこと は言う必要も無い。

スヤマは私にいくつか彼自身のプライベートな話をし私のことも話した。そして一緒に働いたことを誇りに感じていると話した。

彼は私と再会できたことの喜びに満ちた様に話し、感激し霊的な面で現在取り組んでいる研究について話した。(彼はアストラル界の癒しの神殿で活動をしており、亡くなったばかりの霊たちが非物質界の世界に再適応出来るようにする助けをしていた。)

私は隣の仏教徒の友人を見つめ、彼の目はとても輝いているのが見えた。 彼は(明晰さと愛が穏やかな喜びに統合されている)意識が上昇する状態になりつつあったのを私は知っている。

スヤマを再び見つめ、友情と喜びに満ちた姿に、素晴らしい訪問と特別な 意識の触れ合いに感謝した。

その感知を持つことを助けてくれるより大きな力について考え全てに対して彼に感謝をした。人間性について考え全てのものへの善について高き者への祈りをした。

ああ、良心は普遍の世界の様々な場所で再び出会うので死は存在しないと 皆に話したい。

魂は不滅で超越しても生き続けていると皆に伝える。そして、それは身体の 五感を通して感じられるものではなく、それは存在間の調和、心と心によって感 じられるものである。

地上でも空でも、存在間の調和を引き起こすのは愛である。

愛することが好きな人はその精神的なことを心で分かり理解している。

全てのことの適切な瞬間はのみぞ知る。

旅路での忍耐。

全てのものへの識別。

目的の光。

目の輝き。

心の中の愛。

全てに対する大きな感謝。

何故なら彼は全ての場所にいるから。

アリガトウ!

光と平和!



山の上での光の中で-IV*

瞑想の羽の上で、私はどこかの大きな山を見た。

何に対してかは分からないが、ある懐かしさを感じた。

心が私に話しかける。:「静かにし観察しろ:呼びかけを聞け」

そして自分の内側で小さなショカーリョの音が聞こえた。

何故かは分からないが、他の声が私を呼んでるのが聞こえた。

古い声、知識で一杯が精神のみに話しかける。

そして山を見ている間、私の心が「音の無い音」を聞いた。

私の内側の精神の画面で、私はマチュピチュを見て、守護霊とシャーマンとコンドルの魂も見た。

その声は私に偉大な母であるパチャママの甘みについて話した。

びっくりし、私は私の元に降ってきた謎の花の花びらを目にした。

それは大地の間のアンデスの魂の優しさであることは分かっていた。

恥ずかしいことに、私は理解し静かに涙が流れている間に感謝した。

イメージが変化していく間、私は静かにしていた。

私の心は精神的に固定され、私は遠くへ行く。

そして私は山頂で雪がかぶった巨大なヒマラヤ山脈を目にした。

鐘と鉦の小さな音を自分の内側で聞いた。

他の古い声が私を呼び、私にかつてインドに降り立ちヨギ達を啓蒙した東 洋の古い賢者とその高度の微妙な光について話した。

そして私は愛で一杯の空の目を見て、静けさが私を包んだ。

リシ(古代インドの賢者)は静かに人類を見ていると私は分かっている。

その声は私にブラフマンは愛への憧れの終着である…と言った。

その声はまたブッダと菩薩の静かなる共感について話した。

私は僧侶の格好をし喜びながら歌っているチベットの少年を見た。

彼らは世界中を飛んでいる子供の姿をしたスピリチュアルの師であった。

彼らは共感のマントラを歌っている。「オム・マニ・ペメ・フム...」

ワイン色の光がヒマラヤの高さから私の心に降りてきた。

自分の内側から彼らの子供の笑い声が聞こえた。

私は何をすればよいか分からなくなり彼らの知恵の波に圧倒された。なぜなら見た目は当てにならないからだ。彼らは意識の達人であり、私はただの子供であったから。

また再びイメージが変化し、中国のクンルン山脈を目にした。山の上にユーモアにあふれた道教の賢者の集まりが見えた。

彼らのうちの一人が私に手を振り、すぐに黄色い光線が私の額に降ってきた。

全てが明るくなった間、その声が人生を創造する愛と智の踊り、定義できない道の行動について話した。私は黄色い光に包まれ、何をすればよいかすら分からず霊的な波の上で飛んだ。再びイメージが変化し世界の様々な山が現れた。

私は富士山が見え、ブリテン島のハイランド山やその他の知らない世界中 の山々を見た。

そこにある精神は常に光の中にあった。

最終的に私はただ一つの山のみを見た。全ての光と声が面の間を通ってその山から来ていたので、その山はすべての山の祖先だと分かった。

山達は私に「全体性は全ての中にある!」そして、「愛がなければ人間はついてこれない…」と言った。

白い光の波が私の頭の上に降ってきた。光から私の心に: 「書き、笑い、学び、働き、愛し、続けろ…」という声が聞こえた。

追伸.:

山々は私を再び呼んだ。

私は自分の場所を離れることなく山々のところへ行った。私は面の間から魂で行った。

私は心の道を诵って言った。

彼らはその道がこの世のものではなく全ての山の精神の中にある入信者 や詩人と同じ場所を歩いていった。

私はその道を通り、心の中でメッセージを聞いた。

それはいつも光の中で私が受け取ったものと同じものであった。

この文を書きながら、いまこの道にいることを誇りに思う。

私は偉大な魂に彼女らが旅路にインスピレーションを与える為に他の心の 道まで旅できることをお願いした。

私は何の師でもないし、自分自身の師でもない。

私はただ感じて書くことしか出来ない。そして時に山が私を呼ぶ!

山々のメッセージを魂で聞き、その後そうするべきように書き表した。

偉大な宇宙の建築家のみが私の心で何が起きるか知っている。

彼は全ての山の父であり、全ての空と地の父である。

アリガトウ

平和と光!

参照:

*この文の3つの前のパートはこの下のリンクからアクセスすることが出来る。

パート1

http://www.ippb.org.br/textos/856-no-alto-da-montanha-na-luz-da-presenca

パート2

http://www.ippb.org.br/textos/972-no-alto-da-montanha-na-luz-da-presenca-ii

パート3

http://www.ippb.org.br/textos/975-no-alto-da-montanha-na-luz-da-presenca-iii

** Pacha Mama - ケチュア語の・パチャ(「宇宙、世界、時間、場所」)とママ(母)からきている。 - 「大地の母」の意味 - アンデスのペルー人、ボリビア人、, 北東のアルゼンチンとチリの極北の最大の神

*** リシー サンスクリット語 -スピリチュアルの賢者;古代インドの師; ウパニシャッドのマスター

**** ブラフマン – サンスクリット語 – 、至高、宇宙の偉大な建築、神、人生を作る最大の愛.

実際のところ、至高の存在は男でも女でもなく、何者でもない純粋な良心である。

そのため、天の父または神の母とも呼ばれる。、 彼は全ての父であり母である。

***** 道- 中国語 - 「道 |: 「全ての本質 |: 「全て |

実際、道は人間の言葉で表したり説明したりすることは出来ない。

そのため、賢明な老師に、より適切な説明を任せる

自然で完璧なもので空や地より前から存在していたものがある。

不動で計り知れなく変わること無くただ存続し続けている。

それはどこにも存在し決して無くならない。

それは全ての母と捉える事も出来る.

名前が分からないので、私はそれを道と呼ぶ。

彼に名前をつけてくれてありがとう。彼を超越的に呼ぶでしょう。

- 老子 - 「道徳経 |- 中国: 紀元前6世紀

追記.: 知 - 中国語 - 生きるための力、エネルギー

反省と再開...

多くの場合において、インスピレーションを与える瞬間、空は人間の世界に 光の言葉を投影する。 それは心に直接降りてくる! その後、それは「人生を作る 愛 | のチューニングを旅する. 意識的な文章になる。

そして、空が実際の人間の中で他の意識に触れる。宇宙の偉大な心が人間の小さな心に話しかける。

シンプルな生活を超越するその偉大さについて話す。

全ての人の心にある光について話す。

人間の言語にある天について話す。

光の間を通る美しい夢について話す。

霊的な旅について、時空や魂を超えて話す。

自由、平等、友愛の価値について話す。

空だけにその能力があるように、人生の価値付けの意味について話す。

真の友情と善意について話す。

反省と再開について話す...

空が心に降りてきたとき、全てが変化した!

心から心へ、 人間達は他の場所にいるにも関わらずコミュニケーションを 取っている。

彼らは同じ言語と同じチューニングでコミュニケーションを取り合う。

人間と魂の間で空の仕事と恵みを通じた反省と再開。

アリガトウ

平和と光!



あとがき





咲き誇る桜とバラ ...

深夜真っ只中、私の家に光が差し込んできた。その光の中から肉体を持たない指導者が出てきて私に挨拶をした。それはあごひげがあり青い服を着ている日本人の男性であった。

彼は暗い色のキャップを頭に被っていて、とても美しい雰囲気を醸し出していた。

彼の存在は強固で、彼の後ろには桜の花の道があった...

彼は来て、私の右肩に触れ心にこう話しかけた。

「兄弟よ、阿弥陀の慈悲は太陽のようなものだ。

あなたの光は無条件にすべての人に輝きを届ける。」

彼の呼びかけは暗い隅であったものの静かであり反響した。

自らの闇に迷う無数の存在が彼に抱擁された。(痛みによって包まれ、彼らは啓蒙的活動すらも気づかなかった。)

彼にとって、皆が実際の自然界に忘れられた小さなブッダなのだ。彼は何も 非難せず、全てを素晴らしい方法で理解した。彼はエネルギーよりも投影した。 輝いていて静かな慈悲である。

輪廻の渦の中心で、彼は穏やかな平和である。彼は人間のカルマの動きを 観察し、密かに気にかけた。弟の学びをサポートする兄のように。

そこで彼はダルマを果たし全てと全ての人を祝福した。

私はこのスピリチュアルの桜を祝福するため彼の名で来た。

彼の心は常に日の入りである。西洋と東洋において。

それは平和の太陽だ!それは全てに広がる慈悲の素晴らしさだ。

日本とブラジルは同じ川を航海する兄弟である。日本の桜とブラジルの薔薇。一つの花畑。ブラジルと日本、物理的な距離では遠い民族、しかし心の距離はとても近い。表面上では異なる文化だが、秘密のリンクによって相互接続されている。

どうかこのスピリチュアルな桜の成果に幸せを感じてください。 阿弥陀はこのダルマを穏やかな慈悲の太陽と共に祝福する。

追伸:

彼は私にそのことすべてを話し、そして再び光に入った。

彼は去り、平和の日の出とともに仏の浄土に帰った。

そして私は感謝し興奮し、どれだけ幸運なことか考えた。

桜とバラのこの精神的な開花に参加できて幸運だ。

また、私はこのような責任を引き受けたことについて考えていました。幸運なことに、レオ、イヴァン、ナイア、イネスの素晴らしい協力により完成しました。

このスピリチュアルの桜がブラジルと日本において多くの心を照らしている。 音南無阿弥陀仏。

アリガトウ。

平和と光!

- 参照

* 阿弥陀 (あるいは アミターユス) -最も大きいブッダの一つ. 永遠の光を意味する「.

サンスクリット語の「アムリタ・ブッダ」という表現の中国語での訛り – あるいは照らされた不滅。

この用語は様々なバリエーションを持っており、アミタ、アビダ、アミタヤ(またはアミタユス)など。それは無限の輝き(アミター・アバ)だ。

この文章の理解を深めるために「阿弥陀-無限の光の願い人」をこのリンクから読んでほしい。

http://www.ippb.org.br/textos/1241-amitaba-o-esplendor-da-luz-infinita

- **輪廻 -サンスクリット語 -仏教の文脈では輪廻転生を意味する。(世界における転生の絶え間ない流れ)
- *** カルマーサンスクリット語 karma -行動、原因-全ての行動はそれに伴う反応を生み出す。;全ての原因はそれに伴う影響を生み出す。この普遍のメカニズムをヒンドゥー教徒の人々はカルマと呼んだ。 生き物の生命へのカルマの影響と行為は カルマ的な結果と言える。
- ****ダルマ サンスクリット語のdharma 義務, 指名,実存的プログラミング, 利点, 祝福, 美徳な行動、高い目標、健全な行動、



あとがき||





天照神の光の花盛り

オープンファンの神の密かな祝福。

霊的な霧の中から、彼らはやって来る...

それらは、空気のように優雅で、荘厳で神秘的だ。

繊細なエッセンスが詰まった小さな瓶を手に持ってきた...

それらと一緒に太陽から光も来た。

彼らは天照神の非物質的な部隊の働き者である。

彼らは霊的援助の中で、様々な次元間を移動する。

彼らは日本とブラジルの間に見えない橋を作った。

彼らは手に開いた扇を持ちながら、静かで敬意に溢れていた。

彼らが扇をはたいたとき、エネルギーが変化した。

閉じた扇それは道における緊縮と責任を意味する。

開いた扇はエネルギーの拡大と祝福の照射を意味する。

私はそのシンボルについて何も知らなかったので彼らはそれを私に見せた。

感激したことに、私は彼らが私の家に来て扇を振るのを見た。

よって、私はこのような偉大さと誇りの前ではとても小さく感じる。

彼らは私に何も言わなかったが、精神的に彼らを私は理解した。

この本のスピリチュアルな桜の影響で彼らはここにいると私は分かっている。

彼らはこの作品を終わらせに来て、私に日本とブラジルは兄弟であると 言った。

彼らは控えめで、特別なときだけ姿を現す。

私は再び彼らに会えたことへの誇りを感じた。

彼らはここにおり、開いた扇を持っていて喜びを撒いている。

感激しながら、私は静かに顔に涙を流した...

達成された仕事に対する精神的な満足感を内側に感じる。

天照大神はその全てにインスピレーションを与えていると私は心から分かっている。

私はとても小さいと感じる。そして実際、それ以上何を言えばいいか分からない。

(扇は開いておりスピリチュアルなそよ風があちらこちらに吹いている。)

アリガトウ。

平和と光!



用語集





用語集

オーラ - ラテン語の aura(空気の息吹)より - 様々な色の光の輪で肉体を 包み込み、個人が内面的に思考し、

感じ、経験することをエネルギー的に反映するもの。 心理的雰囲気とも呼ばれ、エネルギーフィールドである。

チャクラ -サンスクリット語 - エネルギー体に存在する力の中心で、主な機能は環境からエネルギー(プラーナ、気)を吸収し、それをエネルギー場や肉体の内側へ取り込むこと。

それだけでなく、スピリチュアルな肉体と実際の肉体の間のエネルギーの 橋渡しとして機能する。

主要なチャクラは7つであり、内分泌系を構成する腺に結びついている。: 頭頂、額、喉、心臓、へそ、性器、基底部(脾臓の上にある脾臓チャクラのようなの副次的チャクラとは関係がない。)

追記: このリンクから「チャクラとサイキックフィーリング- II]の文章を見る ことが出来る

http://www.ippb.org.br/bioenergia/chacras-e-cura-psiquica-ii

(バイオエネルギー、オーラ、チャクラに関するさらに詳しい説明のために、 下のリンクからIPPBのサイトの詳しいセクションを見て下さい。

http://www.ippb.org.br/bioenergia).

霊的身体(スピリチュアルボディ) – キリスト教における言及 – コリント人への手紙第一、15章44節。

同義語

アストラル体 – ラテン語のastrum(星空の)に由来 –16世紀のヨーロッパで偉大な錬金術師・イニシエートのパラケルススによって主に使われ始めた表現で、その後様々なオカルティストや神智学者にも使われるようになった。

ペリスピリット(霊子体) – 19世紀のフランスのアラン・カルデックによる概念 光の肉体(ライトボディ) – オカルティズムによる表現

プシコソーマ(心霊体)- ギリシャ語のpsique (魂)とsoma(肉体)より。直訳で「魂の肉体」。これは霊界の存在であるアンドレ・ルイスが、フランシスコ・カンジド・シャビエルとワウド・ヴィエイラによって書き下ろされた1950-1960年代の著書によって使われ始めた表現で、現在はプロジェクショロジー(体外離脱学)の研究者の間でより使われている。

ダルマ - サンスクリット語のdharma - 義務、指名、存在プログラミング、 功徳、祝福、美徳な行動、高い目標、健全な行動、正しい態度、前向きな動機や 普遍の善に基づく動機。

マントラーサンスクリット語ーマナスに由来する単語心そして、制御、解放ー直訳だと「心の制御または解放」

霊媒 - ラテン語のintermediário(仲介者)より - 非物質的存在(霊的存在)を知覚し、それらがより高密度な次元(物質界)とコミュニケーションを取るためのチャネルとなる超常的能力を持つ人。

霊媒能力 −非物質的な存在の影響の元で個人に現れるパラサイキックな現象の総称。

肉体を持たない指導者 -全ての存在の進化を助ける肯定的な非物質的存在。別名非物質的支援者、アストラル・プロテクター、目に見えない援助者、スピリチュアルガイド、霊的恩人

オム・マニ・ペメ・フム - サンスクリット語 - 文字通りの訳:「蓮の中の宝石を救う」チベットの仏教徒と中国の仏教徒の間での慈悲の菩薩の喚起のマントラである。(「慈悲のマントラ」としてより呼ばれている。)

非物質界-アストラル界、あるいは霊界と同義

意識の投射 - 超能力 -全ての生き物に固有。パラサイキックな能力で、意識を肉体の外へ投射するもの

同義語: アストラル旅 – オカルティズム

アストラル投影 - 神智学

霊体の投射 - .薔薇十字団

幽体離脱体験 - 超心理学

魂の旅 – エッカンカー

霊的な旅 - スピリチュアリズム.

体外旅行 - 多くの体外投影経験者と著者による呼称

魂の解放(霊的な離脱) - スピリティズム.

霊的昇天 - キリスト教の著者による呼称

ウンブラル -密度の高いアストラル界 別名 ゲヘナ、ハデス、地獄.



音楽集





音楽集

この本のいくつかの文は日本人ミュージシャンの歌を聴いている間に書かれたものである。つまり、その音楽は私の心のサウンドトラックである。

よって、これらの音楽を聞きたい人のために下にYouTubeのリンクを貼った。

- 「紅」は日本人楽器奏者の城之内ミサによる作品.

https://www.youtube.com/watch?v=zvCHHqIU6j0

- 「Twilight lも城之内ミサの歌である。

https://www.youtube.com/watch?v=C6KGbqLxkwE

- 「涙そうそう」は日本人歌手の夏川りみによる歌。

(日本語による字幕付):

 $\underline{\text{https://www.youtube.com/watch?v=CfB0Sz8Q0ss}}$

(ポルトガル語による字幕付):

https://www.youtube.com/watch?time_continue=180&v=JM_StslGZMw (オーケストラによる演奏と共に):

https://www.youtube.com/watch?v=En_Y-xD2MJI

- 「島唄 |もまた日本人ボーカリスト夏川りみによる歌。

https://www.youtube.com/watch?v=8foQlu_yW70&list=RD8foQlu_

yW70&start radio=1&t=100

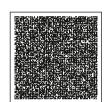
- 「春の海」は日本人ミュージシャンの宮城清子と青木鈴慕による作品

https://www.youtube.com/watch?v=404tSfsP3el

- 「Eye To I」は日本人ミュージシャン北嶋修 による作品

https://www.youtube.com/watch?v=NHhOJry26K0

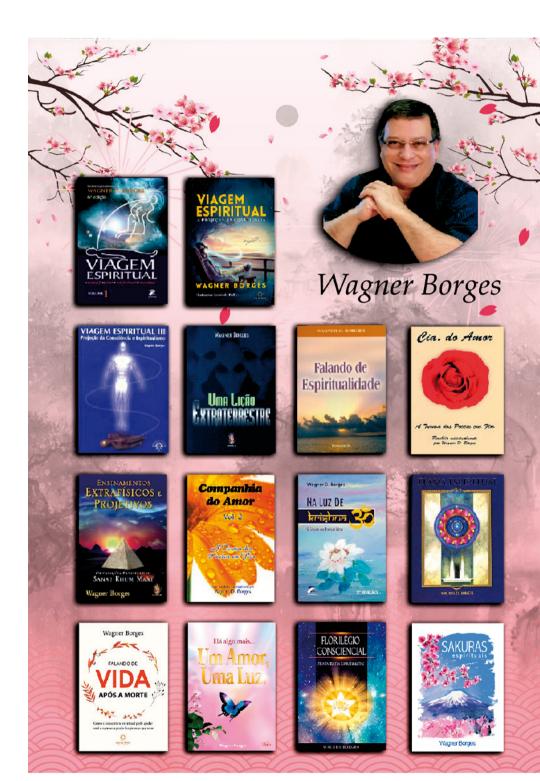
- 「Inside... Is Forever」はアメリカ人ミュージシャンのデヴァカントによる 作品 https://www.youtube.com/watch?v=Uvm7vdT8YfA

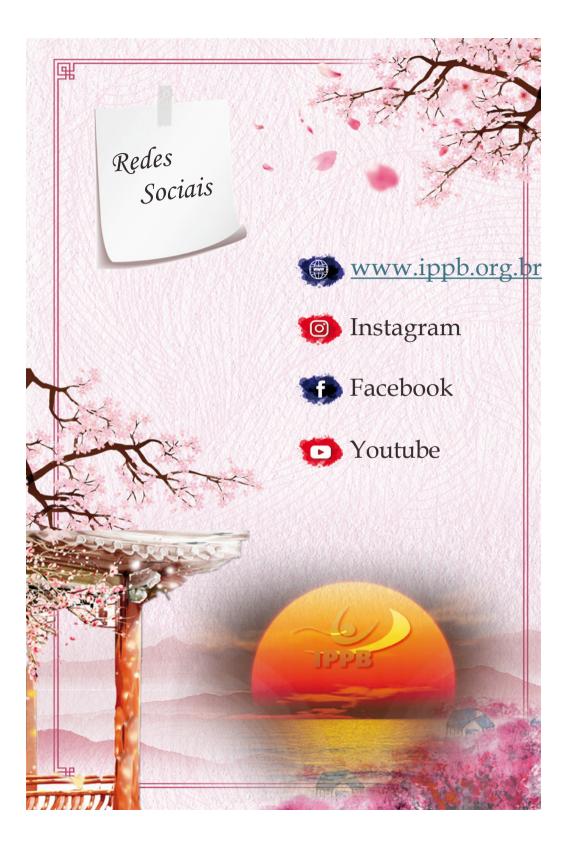




作者による他の作品







「精神の桜」はこの旅を探求する全ての読者にとって特別な経験である。本書には異なる種類の読者が必要である。ゆっくり読み心に触れさせ、全てのメッセージで読者が希望と共感で満たされるようにする必要がある。これらの言葉は光、繋がり、美と愛を引き出し東方の人々とその記憶、普遍さと平等の繊細な感覚を表現している。これは感動的なものである。時間を無駄にせず、すぐに本書の中へ行こう。

「長い旅はただの一歩から始まる。(老師)

この旅を楽しんでください!」

- クリス・ミゲウ -



